

全国石油商業組合連合会 実証事業概要

平成27年12月25日
全国石油商業組合連合会

【実施場所】長野県

- レイアウトパターン: 4 (道路を挟んでいる)
- 外観1



- 外観2
事務所を移設しSSへの来店視認性を高めた



給油取扱所の状況



看板

インターホン

静電気除去
パット

店舗・給油状況

◆ 店舗状況

- ・POSシステム無し
- ・事務所前道路幅は約6M
- ・事務所から目視で来店確認

◆ 給油状況

- ・向かいにある事務所から駆けつけて給油する
- ・給油のみ。窓拭き等サービスは実施せず
- ・男性職員は帯電防止作業服・靴を着用(常時)

実証にあたり設置した機器類

- ① セルフ誤認防止看板
- ② インターホン(ワイヤレス)



看板、インターホン(SS側)



インターホン(事務所側)

- ③ 静電気除去パット



来店から給油までの一連の流れ

- ① 顧客来店（目視で確認。SS側が気付かずに顧客がインターホンを使用したことは皆無）
- ② ノズルの鍵を持ち、SSに向かう
- ③ 鍵を開け給油を開始（窓ふき作業等はなし）
- ④ 給油終了後、ノズルを施錠
- ⑤ 顧客の送り出し
- ⑥ 伝票に数量等を記載、事務所に戻る

給油時の状況

- 来店を確認したら、事務所に保管する鍵を持ってSSIに駆けつけ、ノズルの鍵を解錠して給油を開始する。

施錠中



給油作業者が解錠



給油実施



POSは導入していないが、電源を落とさずともノズルの施錠により、仮に給油客がセルフと誤認しても給油行為は行なえない。

SS利用者の意見

➤ 駆けつけ給油について

「こんな小さなSSだったら人を固定させていたら商売にならなくなる。自分はずっとここを利用しているが、そのやり方で経費を押さえ事業継続してもらえらなら、是非やるべきだ」

➤ セルフとの誤認について

「いつも利用しているというのもあるが、看板もでているのでセルフと間違えることはない」

➤ インターホンについて

「インターホンを押してみたいのだが、その前にここの従業員は駆けつけてくれる。押す前に来るんだから、なにも問題はない」

検討事項の確認

- ✓ POSシステムの導入状況
⇒導入なし
- ✓ 静電気帯電防止対策に係る作業服及び靴の常時装着状況
⇒ガス事業を主に行っているため、男性職員は全員帯電防止の作業服・靴を着用。女性事務員は普段着
- ✓ 作業服等を常時装着することは可能か
⇒男性職員は可能(既に着用)、女性事務員は用意なし
- ✓ 給油ノズルのラッチオープン機能の有無
⇒機能あり
- ✓ ラッチオープン機能無しへの変更について
⇒現状のままを希望(現状問題がない、作業効率・費用面)
- ✓ 現在の来店確認方法
⇒目視。インターホンを設置したが、使用実績なし

実証まとめ

- 同社は固定客のみが給油するSSで来店客数は少ない(因みに、11月のガソリン販売数量は3KL)
⇒固定客のみということで、当該SSをセルフと勘違いする客はいない
- 店舗前は車、人を含めて往来は少ない。小学生の通学路になっているようだが、SS敷地内に入り込むそぶりは見受けられない。ノズルは常に施錠して計量機に固定
⇒不特定多数の来店はない。いたずらされる可能性は低い
- SSの視認性が高い位置に事務所を移動したことで、来店者を確実に認識し、対応速度は通常のフルサービスSSで、セールスルーム内からスタッフが対応する場合と遜色ない
⇒顧客を店舗に待たせる状況は起きにくい

以上、当該事業者の状況を踏まえると、今回の実証にあたり設置した機器類が全て必要であるとは考えにくい。当該事業者はこれまでも「駆けつけ給油」を問題なく実施してきているため、現行のままでも安全性は十分確保できているのではないかと考えられる。